

質問 2-2 大戸川ダムの代替案として、淀川 3.6km 区間の堤防補強を行い、計画高水位を 17cm 上げるか、又は、堤防を 17cm 嵩上げすれば、ダムを造る必要はなくなるのではないのでしょうか。

(回答)

- 洪水に対する安全は、河川改修や貯留施設により洪水を川の中で安全に流す対策と堤防強化の双方が相俟って効果を発揮するものであり、どちらか一方だけで他方を代替することはできず、堤防強化(補強)で大戸川ダムの代替はできません。
- 一般的に、計画高水位を上げることは、破堤した場合の被害を大きくするため極力避けるべきであるが、仮に、大戸川ダムがない場合に計画高水位を超過する淀川本川 3.6km 区間の計画高水位を 17cm 高くするなどの条件を設定して試算すると、堤防の嵩上げ、長柄橋の架替え、淀川大堰の改築、毛馬排水機場の改築等により、約 1,120 億円の費用が必要になります。

(参考) 淀川本川 3.6km 区間の堤防の嵩上げに係る
約 1,120 億円の内訳

堤防の嵩上げ	約 90 億円
淀川大堰の改築	約 500 億円
長柄橋の架替え	約 300 億円
毛馬排水機場の改築	約 220 億円
樋門更新	約 10 億円
合 計	約 1,120 億円

(関連資料)

- 平成 20 年 4 月 22 日 第 77 回淀川水系流域委員会 審議参考資料 1-2
<http://www.yodoriver.org/kaigi/iin/index20.html#77th>

※本質問は、平成20年8月25日に開催された滋賀県議会「琵琶湖淀川水系問題対策特別委員会」において、滋賀県から寄せられた質問に対して近畿地方整備局から回答した内容を中心に整理したものです。なお、現在は時点更新も含め内容を精査しており、最新の情報ではない場合があります。

洪水が橋桁に達するような状況になると極めて危険

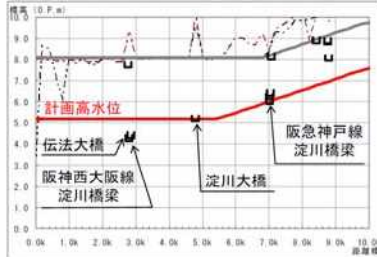
橋桁に洪水がぶつかると流れにくくなり、橋の上流で水位が上昇(破堤につながる)

淀川には洪水を安全に流すための空間が不足している危険な橋梁が15橋存在

中でも計画高水位より桁下が低い極めて危険な橋梁が4橋存在

少しでも水位を下げる必要

計画高水位を下回る橋梁



阪急神戸線淀川橋梁



堤防に食い込む 国道2号淀川大橋



複数の橋梁で洪水が流れにくくなり水位が上昇(平成16年福井市:足羽川)



洪水が橋桁にぶつかっている枚方大橋



部分的堤防嵩上げは実現性・経済性の両面から問題

○破堤時の被害が拡大するため計画高水位は決して上げてはならない

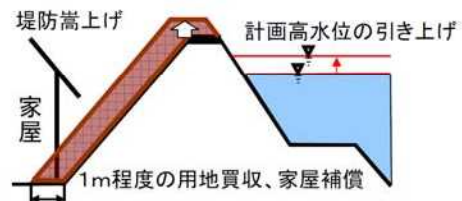
○対象区間には淀川と旧淀川(大川)の分派点があり、治水上の弱部。また重要施設が多数存在。計画高水位を上げることは極めて問題

○仮に、計画高水位を超える区間(3.6km)だけの堤防嵩上げを実施したとすれば

- ・堤防敷地の増加に伴う用地取得が必要
- ・淀川大堰、毛馬排水機場等の改築が必要
- ・長柄橋の架替が必要



- ・多額の費用
- ・地元の合意に多くの時間



	堤防嵩上げ	大戸川ダム建設
費用	約1120億円	残事業費 約480億円 (全体1000億円)
うち大阪府負担	約410億円	約80億円
工期	約20~40年	約10年